

2012年度学校教育評価

評価（達成度）

A：十分

B：おおむねよい

C：不十分

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
SS大学 進学コース	生徒一人一人の学力の伸長と希望進路の実現	3年生は、実態に即しながらも高い意識を持たせ、各々の第2志望までの現役合格をめざし、大進コース職員会等を通じて担当教員が情報を共有し、きめ細かい指導に努める	B	合格実績は上がらなかったが、クラスの人数も少なく、学力もかなり低い生徒が多い中、各教科指導は個々に対しきめ細かく行った。	生徒の成績、志望大学、合格状況などの情報をもう少し教員間で共有し、皆でクラス全体を盛り上げていけるような体制を作るべく、コースの職員会の回数を増やすなどする。
		1, 2年生は豊富な授業（土曜授業、長期休業中特別授業）や、放課後の学習指導（寺子屋授業）を通じ、個々の学力を伸ばす	A	大進の土曜授業は、部活動で足並みの揃わない日も多かったが、大学入試への意識付け、及び豊富な授業時間の点で成果。寺子屋授業も、参加生徒も固定化もあるが個々に指導を受け成果を上げている。	コース職員会の回数を増やし、家庭での状況、あるいは放課後、部活動の様子保護者の声なども、教員間で反映させる。
総合進学 コース	学力の充実	系統別の授業を活用することで、生徒の進路実現の推進力とする	B	休み中などの実習を効果的に行った	更なる充実を図る
		2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを身につける	A	各学年ごと模試を活用し、生徒の実力を伸ばすことができた	年間行事の中に入れて計画的な実施をする
	社会適応力の育成	土曜授業で行っているキャリア教育によって、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる	A	様々な方面からのアプローチによって生徒の意識向上へ結びつけることができた	
		自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育を目指す	B	個々に対応した指導を心掛けた	教員のチームワークをさらに向上させ指導に当たる
	部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適應できる「人間力」の育成に努める	A	様々な場所での結果や成果を得られ、「人間力」の向上を実感することができた		
美術工芸 コース	希望進路の実現	個別面談を行い、目標実現のため、適切な支援を行う	A	難関美大に多数の現役合格者	OB講演会の更なる充実
		専門実習の更なる充実と共に、美術系大学一般入試科目の充実を図る	A	一般受験でも複数の合格者	美大合格者からの声を今後も更に参考に
		アートセンター（美大予備校）との連携強化	A	美大受験の現状に関する情報交換	アートセンターからの出前授業を打診
	生徒の心身の充実	教員間の連携による適切な生徒相談を行う	A	専攻別の垣根を越え、初めて他専攻に参加	不足した力(デッサン力等)を身につけるカリキュラム
		美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進	A	美術・工芸により自信をつけ成績が向上多数	来年度の40周年記念展に向けた取り組みを利用
	生徒作品の充実	これまでの美工展作品展を総括し、更なる作品の充実を図る	A	近年では、最もレベルの高い展示実現と評価	校内展示の充実（ガラスケース内大幅入れ替え）
様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める		A	新しい美術館を常に調べ見学を実現	特別授業を利用した見学を検討	
スポーツ サイエンス コース	競技実績をあげる	個々の技術レベルを伸ばすとともにチーム力をあげる	A	競技実績は上がっている。柔道(全国大会出場) 空手道(全国大会出場) 野球(夏…準優勝) バスケ(新人3位) サッカー(県リーグ2部昇格) 上位戦績の定着化を目指す。	スカウティングの内容を検討する。実技 施設の充実を図る。
		競技の中においても人間形成に配慮する		各部の指導者が努力したが、方向転換の生徒が出てしまった。	生徒とのコミュニケーションを多くする。
	学力向上を目指す	日頃の学習の取組姿勢が競技の中に表われることを理解させる	A	テスト前に勉強会を各部ごとに開いた。学習能力の低い生徒の指導が十分とはいえない。	学習習慣を身につけさせる。
	進路保障	個別に対処し、担任・進路指導部と連携を取り、希望進路実現に向けてサポートする	A	希望進路実現に向けてサポートした。一般受験できる力をつける。	進路開拓をする。カリキュラムを工夫する、
	コース編成	他科・コース及び競技種目とのバランスを考える	B	競技ごとの人数のアンバランスはある。	スカウティングの内容を検討する。
食物科	卒業作品展の成功	実習担当講師との連携を深め生徒の技術向上を図る	B	生徒の中に基礎の定着不足があった	学年を超えての実習ノートの活用
		日常の様々な授業の中で作品展の事を取り入れ生徒の意識を高める	A	授業やクラス通信で意識付けを行った	2年は当日の見学だけではなく前日の仕込みから見学する
	校外実習の充実	農場体験や各種テーブルマナーの実施	A	食材を大切に扱うようになった	授業との連携強化
		生活産業基礎での職場見学の実施	A	普段はなかなか見ることができない現場を見学できた	次年度以降も継続して行いたい
プロ意識の育成	外部講師、OB・OG講演会の実施・高校生レストランの実現	A	放射能汚染に関する問題に対する学習会が実現できた	放射能に関する勉強会は3年に1度は実施したい	
1学年	主体的な学習への取り組みと思いやりを持った行動の実現	基本的な生活習慣を確立させる	A	遅刻も少なかった。入試の時から生徒の分析	入試の時から生徒の把握
		他者への思いやりの意識を持たせる	B	講演等多く、意識向上を図った。	授業中の他者への思いやりを更に喚起。
		将来の進路について意識させる	A	個々への意識づけができた。	具体的進路決定に向け活動する。
		日々の学習・清掃活動等、努力できる生徒を育てる	A	女子の清掃態度良好。ｽｰﾂｲﾝの生徒の問題	男子の学習態度の改善。コース間の差を無くす。
2学年	生徒一人一人の健全な学校生活の支援	学年会を通じ、各クラスの問題点等、情報を共有し皆で協力しながら問題解決に当たる	A	学年会で毎回各クラスの様子を担当が報告し、生活指導・身心不調の問題は多々あったが、互いに意見やアドバイスを出し合い面接を行い、担任に対しそれなりの協力ができた。	生徒の進路実現、卒業に向け、今年度同様、協力的な雰囲気大切に作る。
		沖縄研修旅行、松代大本営予定地見学を通じ、戦争の悲惨さを実感させ、平和の尊さに対する認識を高める	A	・大きな問題もなく予定通り実施。平和学習学年集会（講演会・映画鑑賞）も、生徒の感想文からは意識向上に役立った事がうかがえた。	沖縄の壕(ガマ)の見学は、参加できない生徒も多く、今後見直し・改善の必要の声もある。
	生徒一人一人が、より深く活動に参加できるよう、旅行委員会を組織し、「沖縄通信」を発行したり、自主研究を促すために「沖縄研究大賞」を実施する	A	それぞれ個性的な作品を発表し、沖縄についての造詣を深めることができた。	香椿祭での展示に、さらに工夫の余地があるかと思う。	
3学年	主体的な学習への取り組みと希望する進路の実現	基本的な生活習慣を確立させる	A	自覚を持って生活する生徒が増えた	
		将来の展望と進路選択を具体化させる	A	概ね達成	
		希望する進路が実現できるように適切な指導をする	A	適切な指導を心がけ、努力した	
		一般入試に向け努力できる生徒を育てる	A	概ね達成。生徒はよく努力していた	
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を確実に集める	B	提出ギリギリ、事後の提出が多い。	朝会等も使って各係の文書を集中する
		授業変更・自習監督の円滑化	A	授業がなく、出張もない先生で監督できない場合あり	出張等の連絡・自習等の課題は2日前までに提出
	新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携	A	主任が同じで、連携は取れたが、決定が遅い	教科書決定までには、カリキュラムの決定を
		教育課程検討委員会（教科）との連携	B	教科との連携は各教科ごとに行った。	各授業担当まで把握してほしい
	成績PC処理の立ち上げと継続	入力のPC処理を教科担当が行う・各学年担当が成績処理	A	おおむね各先生が行えた、一部の担当に仕事が集中	担当者の中で分担を、細かな入力ミスをなくす
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底	A	教務主管行事はすべて2ヶ月前の中学連絡ができた	校内の行事の連絡は1か月前に確実に
ミスをなくす		B	研修旅行・中学訪問の予定の間違いがあった	行事予定表のチェックを急ぐ	
適正な定員確保のための入試		スポーツ推薦の厳格化	A	ｽｰﾂｲﾝの入試はスポーツ推薦のみにした	底上げ・人物評価・県外出身生の把握を確実に
		入試基準値の適正化	A	総合進学の推薦・A方式の基準を上げた	特別入試等の基準を検討しなおしてほしい

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）	評価	成果と課題	改善策・向上策
進路指導部	適正な自己認識と進路選択（キャリア教育の実践）	必要かつ有効な進路情報の提供	A	担任・クラス進路係を通じてできる限り多くの情報を提供できた	外部からくる無料情報誌が膨大な量で来るため不要物の処分が大変、なんとかしたい
		ガイダンス・カウンセリング（個別面談）による支援	A	生徒の受講態度が良いとよい評価をいただいている（ガイダンス）	関東圏だけでなく東海方面まで広範囲から来てもらえるよう働きかけたい
		自己理解のための適性検査・諸検査の実施	B	事後指導が徹底できるとなおよしい	積極的に検査を利用してもらうよう働きかけたい
		講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置	B	全校対象の講演会はよかった インターンシップの活用はよい	よりよい内容になるよう努力したい
	希望進路の実現	第一志望の合格、就職未決定者0の実現	B	進学ではさらに努力が必要だが就職は未決定者0を実現できた	早め早めの進路意識をHR・集会等で持たせるよう働きかける
		個別面談を行い、目標実現のため適切な支援を行う	A	学年・担任との情報交換も含め支援することができた	早め早めの動きははじめができるよう今後も努力していきたい
	社会人として必要な資質の育成	模試等を通じて基礎学力・一般教養を定着させる	B	受験すべき生徒が大進を除き少ないため学部決めの参考にまで及んでいない	生徒には積極的に活用するよう働きかけ模試以外でもできることを模索していきたい
		生活指導部と連携し基本的な生活習慣を身につけさせる	B	日常の中から社会人として必要な要素となることを進路指導から見た形で指導した	キャリア教育の一環としても重要なので普段から生徒とのやり取りで大事にしたい
		面接指導を通じてのマナーの定着	B	日常の中から社会人として必要な要素となることを進路指導から見た形で指導した	間際になって動くのではなく早い段階で動き始める
	環境衛生部	生徒・職員の心身の健康問題の早期発見・早期治療	健康診断で指摘を受けた者に対する早期の受診勧告	A	年間3～4回の勧告で全項目で治療率上昇
担任と協力して生徒の欠席状況・心身の健康状況を把握する			B	欠席状況の把握が困難	欠席把握できるシステムを構築してほしい
日々の保健指導・健康相談活動の充実		養護教諭の特性と保健室の機能を生かし、様々な訴えをしっかりと受け止める	A	昨年度より重い内容の訴えが増加	担任・特別支援との連携を強化する
		生徒の様子を紙面で担任に毎日報告、必要に応じ学年とも連携し迅速的確に対応	B	もう少し迅速に対応すべき事例があった	学年との連携を強化する
防災対策・防災教育の充実		避難訓練等の実施を通して生徒の防災意識の向上	B	2回の実施の中で意識付けはできた	本校校舎内の実態を考えた内容にしたい
		様々な災害に対応できる環境整備	B	消火器の周辺、避難経路の確認、各階にプレート設置	各関係の先生方と協力して徹底したい
学習環境の整備		教師生徒による全校清掃の徹底	B	清掃監督の徹底	日々の声掛けが必要
		校内巡視（清掃委員会）による、校内美化の注意喚起	B	可燃ごみが若干減少した	C棟喫煙室の校舎外への移転の検討
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決	B	早期の対処で解消できた	質問項目として普段の生活の相談も含めた
		悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実	B	発達支援○○との連携	
	生徒の基本的な生活習慣の定着	身なりに関する指導の徹底	A	校風の定着に貢献	
		授業への取り組み姿勢に関する指導の徹底	C	一部に効果的であった	横一線の指導をするための検討（指導が斑であることによる弊害は何件もあった）
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実	B	1年生ならびに保護者に警戒感を感じてもらうことはできている	より深い性教育の必要性を感じる 来年度1年間かけて研究
		ネットやブログの使い方に関する指導の充実	B	1年生ならびに保護者に警戒感を感じてもらうことはできている	スマホに関する指導の研究
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討	B		
		懸念や指摘（被害や苦情）に対する迅速な対応ならびに周知徹底	A	性被害の減少には貢献していると思う	保護者への一斉送信を導入する可能性について検討
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止	B		複数回の見回り、防犯カメラ設置可能性の検討
		自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ	B		自転車安全運転について効果的な啓蒙方法の研究
生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供	B		本校の教育に対する理解が深まってきている	
	本校受験予定者と保護者への積極的な情報提供	A		本校の教育に対する理解が深まってきている	
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする	B	生徒や教員の意識をさらに向上させることができる	様々な手段での働きかけを充実させる
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案	B	例年通りの活動に終始してしまった 新たな取り組みを考える必要がある	他部署との情報交換、教員と生徒との情報交換を充実させる
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮される文化祭になるような助言によって、生徒が達成感を得られるようにする	B	助言などはできたが、生徒の達成感を大きくする工夫はまだまだできる	学校全体で生徒を応援する体制を強化する 生徒が積極的に参加できるアプローチを考える
	インターアクト地区大会の成功	ホスト校としての責任を果たせるようにサポートしていく	A	ホスト校として十分な責任を果たした	
課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築する	A	柔道や空手道のインターハイ・全国選手権・選抜出場、野球の県準優勝、男子バスケの北信越初出場をはじめ成果が出た	指導者の技術指導のレベル向上	
	PTA研修旅行の参加者を増やす。	目的地、旅程の検討。パンフレット（案内）の配布等呼び掛けの回数を増やす	B	現Pの参加人数は、前年度に比べ、増加した。	参加者を増やすための方策を新たに考えていく。（地区PTAに対しても）
渉外部	私学助成中信地区私学助成推進協議会事務局として役割を果たす。	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持・拡充を図る	A	メンバー全員で協力して取り組めた	分担することのプラス面・マイナス面あり
	同窓会組織の充実と活性化	役員会の回数を増やし、活性化への方策を検討する。	B	同窓会の組織の充実と活性化ができなかった。	同窓会の役員と連絡をとりながら組織の充実化活性化を図る
図書視聴覚部	館内図書の利用の活発化	広報活動の充実。図書委員を有効に活用し、利用を呼び掛ける	B	1年生を中心に朝読書の図書の活用ができた。 図書館利用の生徒にはきちんと対応するよう心掛けた	広報活動の充実、朝読書の活性化、自習室としてのマナーを守らせる
	館内図書の整理の充実	カードを作成する。館内の模様替え	B	図書委員を活用し、カード化に着手した。館内の模様替えをした	より良い委員会活動を展開する
	図書の広報活動の活性化	「図書館便り」の発行	C	1年2回の発行にとどまった	図書館だよりの発行回数を増やす
	図書委員会活動の活性化	統一活動日の設定。当番活動を確実に実行(校内放送の利用)	B	統一活動日を設定し活動できた	運動部の生徒は大会日程を避けて当番活動を行う
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚設備・教材の充実を図る	B	全教室で利用できるように設備を整えたが、視聴覚教材の利用度は高くないのが現状。	授業等で視聴覚教材の利用を働き掛ける必要あり
生徒募集	定員の確保	本校の様子を中学の教師や生徒・保護者に理解してもらい、タイムリーに中学校訪問や進路講話を行い、本校を志望する生徒をしっかりと確保していく	A	4～6月中学34校10月塾15校訪問、中学3年進路講話34校定員確保の一助となった	地道に継続し、中学とのパイプをより太いものに
安全管理委員会	学校安全の推進	生徒の生活安全、交通安全、災害安全等、地域社会・家庭との連携を図り強化していく	B	例年通り各セクションと連携	災害時の安全等の一斉メールの検討
学校振興委員会	本校の具体的な将来像の模索	少子化の中、将来を見据え、松本で「安定的に定員が確保できる私学」を目指すための具体的方策を立案し、検討・実施していく。	B	いろいろな観点から本校の将来像の模索（入口入試から出口まで生活指導面も含めて）	学年単位授業の計画と検討、本校の哲学（ホリソ）を展開する一助としたい
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する	B	この一年の実績を考慮して配分	1年間のくくりの検討
	部活動を通しての生活指導の徹底	帰宅時間や部室管理等の意識統一を徹底する	B	全部活の生徒下校時間を20時とする	部室管理の強化
	競技力向上のための指導法の研究	各種研修会への参加促進、並びに校内研究会の開催	B	数人の教員が日体協の資格を取得	指導方法の検討を行う
校務分掌委員会	次年度校務分掌作成及び決め方 在り方の検討	職員が互いに前向きに仕事ができるように、最善の策を講じる	B	在り方決め方のアンケートを実施するが、ほぼ従来通りの希望制	教員の仕事の温度差の均一化
教育課程委員会	新教育課程の作成	生徒の進路実現に向けて、より普遍的な教育課程を作成する	B	新教育課程に向けて各コースごとに検討されたものの総括	生徒の進路によりつながるカリキュラムの作成